



開発中のがん診断技術について説明を受ける  
党神奈川県議団

# 最新のがん対策探る

## 診断技術の研究施設を視察

川 神 奈 川 県 議 団  
党 県 議

公明党神奈川県議団（鈴木秀志団長）は13日、川崎市にある財団法人「神奈川科学技術アカデミー」を訪れ、がん対策に関する研究事業について関係者から説明を受けた。

一行が訪れたのは、血液中を循環するがん細胞を1細胞単位で捉えて検査する、新たな技術の開発に取り組んでいる「オンチップ・セロミクス」プロジェクトの実験室。

人の血液には、10<sup>11</sup>個程度のがん細胞が存在するとされる。こうした血液には、10<sup>11</sup>個程度のがん細胞が存在するとされる。こうした血液には、10<sup>11</sup>個程度のがん細胞が存在するとされる。こうした血液には、10<sup>11</sup>個程度のがん細胞が存在するとされる。

悪性のがん細胞を確実に捉えることができれば、少量の血液を採取するだけで、がんの再発診断や抗がん剤投与の効果を計測することが可能になる。

このため同プロジェクトでは、東京医科歯科大学の安田賢二教授をリーダーとして、組織切片中の微量がん細胞を正確に発見し、がんの状態を診断する技術や、名刺サイズほどのチップ上の微細な流路に流した検査試料中に含まれるがん細胞を回収し、がんの種類を特定する技術などを世

界に先駆けて開発することをめざしている。これに対し、鈴木団長らは今年30日、県議団として安田教授を講師に招き、横浜市内で早期がん診断を実現する技術テーマにした講演会を開催する予定と発言。その上で、「がんの早期発見や効果的な治療につながる技術の開発が促進されるよう、必要な支援に努めたい」と述べた。